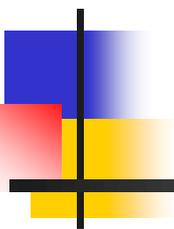


平成25年度総合型地域スポーツクラブ等人材育成事業

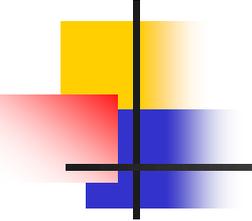


「スポーツボランティアの力」
～現状およびクラブイベントでの運営事例～

工藤 保子

(笹川スポーツ財団)

2013.07.20 15:30～17:30



本日の研修会の内容

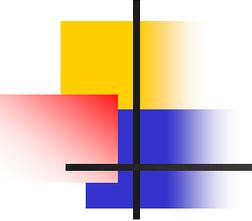
- スポーツボランティアの定義・分類・位置付け
- データでみるスポーツボランティアの現状
- 事例：クラブ・ボランティア発掘・確保のヒント
- 事例：クラブイベントでの運営事例
湘南オープンウォータースイミング例に



スポーツへの関わり方

<スポーツライフ>

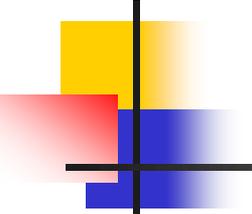
1. 「する」……スポーツ参加・実施
2. 「みる」……スポーツ観戦
3. 「ささえる」…**スポーツボランティア**



定義：ボランティアとは

- 「個人の自由意志に基づき、その技能や時間等を進んで提供し、社会に貢献すること」
- 特徴：**自発性**（自由意志に基づく）
無償性（無給の活動）
公共性（公益的活動）
先駆性（発展的活動）

（文部省生涯学習審議会,1992）



定義：スポーツボランティア

- 「地域社会やスポーツ団体・クラブ、各種スポーツイベントなどにおいて、個人の自由意志に基づき、その技能や時間などを進んで提供し、社会に貢献する活動」と定義される。
(文部省,2000)
- 「スポーツ」という文化の発展のために、金銭的報酬を期待することなく、自ら進んでスポーツ活動を支援する人のことである。
(日本スポーツボランティア学会,2004)

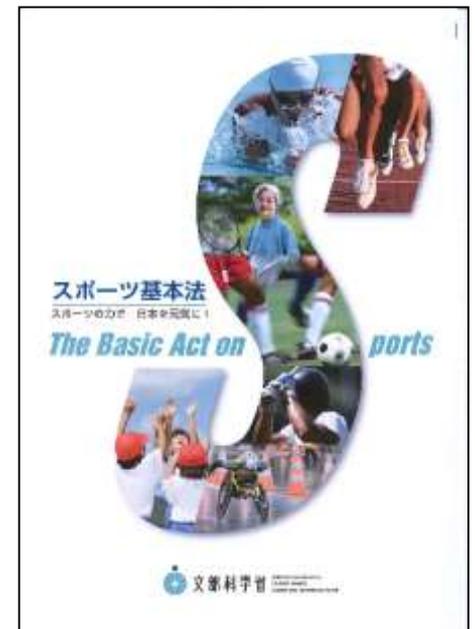


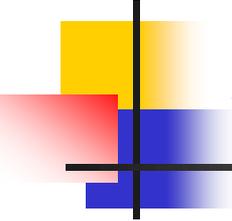
なぜ、スポーツ・ボランティア？ (位置付け)

- 地域における重要性が再認識
 - ① 地域のスポーツイベント
 - ② 総合型地域スポーツクラブ
 - ③ **スポーツ基本計画**

スポーツ界の法律等の流れ

- 1961年 「スポーツ振興法」
- 1998年 「スポーツ振興投票の実施等
に関する法律」
- 2000年 「スポーツ振興基本計画」
- 2010年 「スポーツ立国戦略」
- 2011年 「スポーツ基本法」
- 2012年 「スポーツ基本計画」
- 20??年 「スポーツ庁」(予定)





スポーツ基本計画 (2012.03.30)

- 「スポーツボランティア」文言: 14カ所で使用
- 第3章 今後5年間に取組むべき施策
 - 2.(1)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
 - ③今後の具体的施策展開:
 - (スポーツボランティア活動の普及促進)
 - 国は、活動に関する国民の関心を高める。
 - 地方公共団体は、貢献がある者の功績を称える。
 - 地方公共団体やスポーツ団体等は、参画環境を整える

神奈川県スポーツ振興指針



- 文言・・・「ボランティア」: 6カ所
「スポーツボランティア」: 8カ所
- 活動機会の拡大
- 人材の養成・充実
- 組織の充実
- 育成・活動支援
- スポーツボランティアバンク



神奈川県スポーツ振興指針 「平成25年度 推進事業一覧」

- 体育センター

 - スポーツボランティアの活用(クラブに啓発)

 - 高校生・大学生のボランティアの活用

- 保健体育課

 - 部活動支援ボランティア(社会人・学生)

- スポーツ課 : スポーツボランティア組織との連携

- 障害福祉課 : 障害者スポーツボランティアの活用

スポーツ・ボランティアへの 理解を深める為に:3分類

<3分類>

- イベント・ボランティア
- クラブ・ボランティア
- アスリート・ボランティア

(SSF笹川スポーツ財団「スポーツ白書」,2011)

1. イベント・ボランティア

非日常空間・不定期的

国際スポーツ大会、地域スポーツ大会等

一般ボランティア

給水・給食、案内・受付、記録・掲示、

交通整理、運搬・運転、ホストファミリー等

専門ボランティア

審判員、通訳、医療救護、データ処理等

イベント・ボランティア





イベント・ボランティアの数

- ユニバーシアード神戸大会(1985) 8,300人
- 長野冬季オリンピック(1998) 32,579人
- かながわ・ゆめ国体(1998) 5,831人
- FIFAワールドカップ(2002) 28,729人
- ロンドン五輪・パラリンピック(2010) 70,000人
- 東京マラソン(2013) 10,000人

- 湘南オープンウォータースイミング(2012) 700人

2. クラブ・団体ボランティア

定期的活動

地域のスポーツ団体・クラブ等

ボランティア指導者

指導、審判、アシスタント等

運営ボランティア

事務、役員、会計、機関誌・HPの作成等

クラブ・ボランティア





事例：クラブ・ボランティア

- 日本スポーツ少年団

登録指導者 約20万人（平成24年度現在）

1団あたりの指導者登録数 平均5.6人

- 総合型地域スポーツクラブ

1クラブの指導者 平均21人（平成23年文科調べ）

21人 × 2,480クラブ = 約5万2千人

（※手当無し：有資格者47%、無資格者 63%）

3 アスリート・ボランティア

トップアスリート・スポーツ団体による活動

ジュニアの指導、施設訪問、地域イベントへの参加など

出典：SSF笹川スポーツ財団「スポーツ白書」2011より作成

アスリート・ボランティアの事例

- プロ野球、Jリーグによる教室開催
- トップス広島：5競技6団体
サンフレッチェ広島（サッカー）、JT（バレー）、
湧永製薬・イズミ（ハンドボール）、
広島銀行（バスケ）、広島ガス（バドミントン）
- NPO法人MIPスポーツプロジェクト 
代表：倉石平（バスケットボール初のプロ監督）

アスリート・ボランティア



福岡・新宮町でソフトバンク野球教室

小中学生69人参加

鷹OBら指導
 ホークスOBによる福岡ソフトバンクホークス野球教室が17日、福岡県新宮町のグラウンドで開かれた。同教室にはフレッシュリーグ・福岡ライナースの小、中学部の計69人が参加。ホークスOBで野球評論家の山内孝徳、カズ山本両氏の指導に熱心に耳を傾けた。

同教室は球団に今年1月から新設された野球振興部による取り組みで、4月の沖縄に続き、九州・沖縄では2回目。この日は山内氏が指導する投手とカズ山本氏による野手とに分かれ、約2時間の指導を行った。

参加した福岡ライナース中学部の西村洋平主将は「プロの方は話がわかりやすいし、面白かった。将来はプロ野球選手になりたい」と目を輝かせた。



「野球教室で打撃を指導するカズ山本さん(右)」

球団は野球の発展・普及を目的とした特定非営利活動法人(NPO法人)「ホークスジュニアアカデミー」(桜井輝秀理事長)設立を申請中。野球振興部長でもある同理事長は「将来は教室を月に4回ぐらい開けるようにしたい」と語った。

アスリート・ボランティア



一般社団法人アスリートソサエティ

日本のスポーツを変革する選手共同体
為末 大 / (第1期)



スポーツボランティアの現状把握 「スポーツライフ・データ2012」

調査対象 : 全国市区町村に居住する
満20歳以上の男女

調査時期 : 平成24年6月22日～7月22日

調査方法 : 訪問留置法による質問紙調査

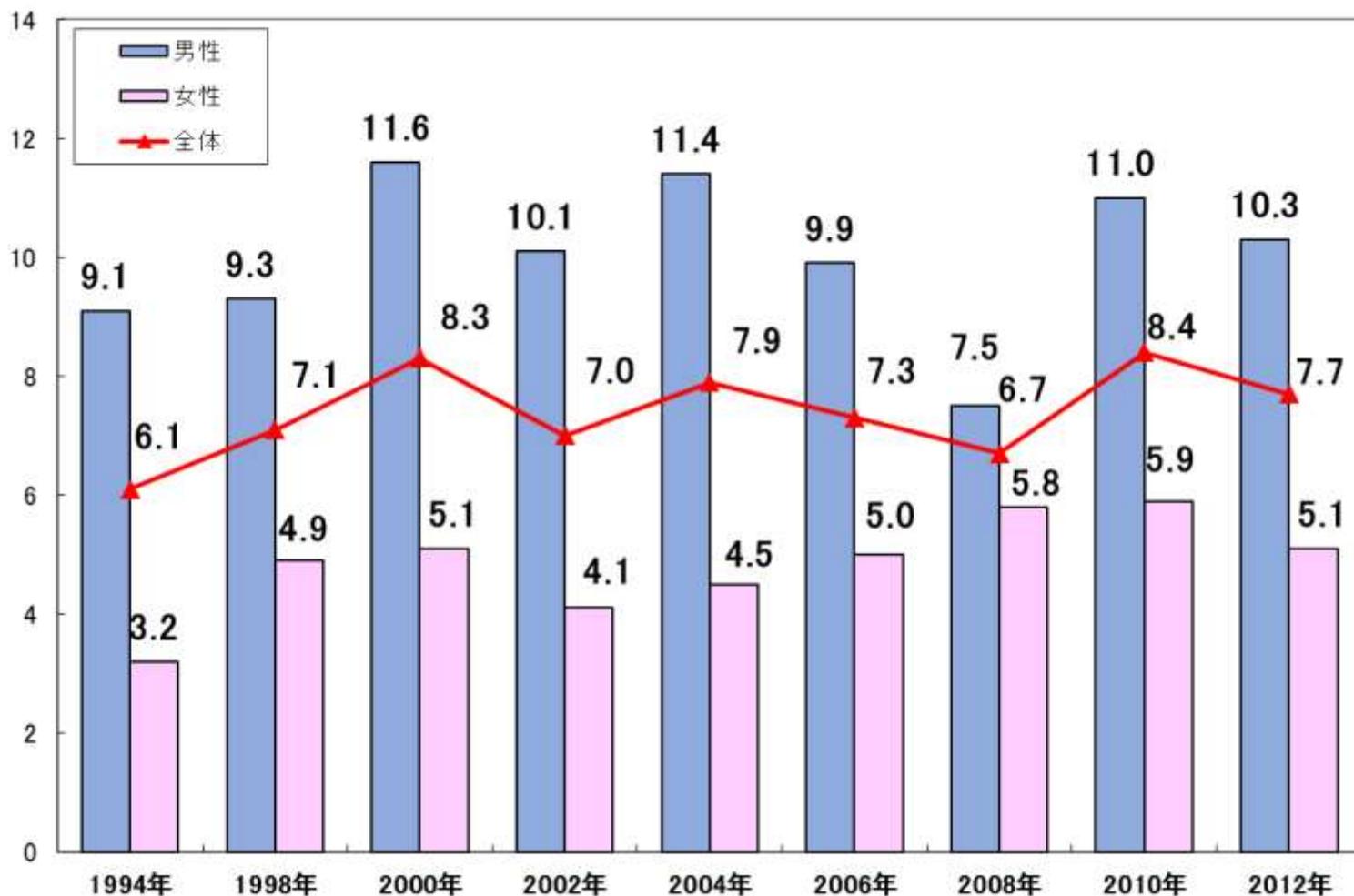
抽出方法 : 割当法(クォーターサンプリング)

回収数 : 2,000人

調査内容 : 運動・スポーツ実施率、クラブ加入率、直接スポーツ
観戦率、スポーツボランティア実施率 等

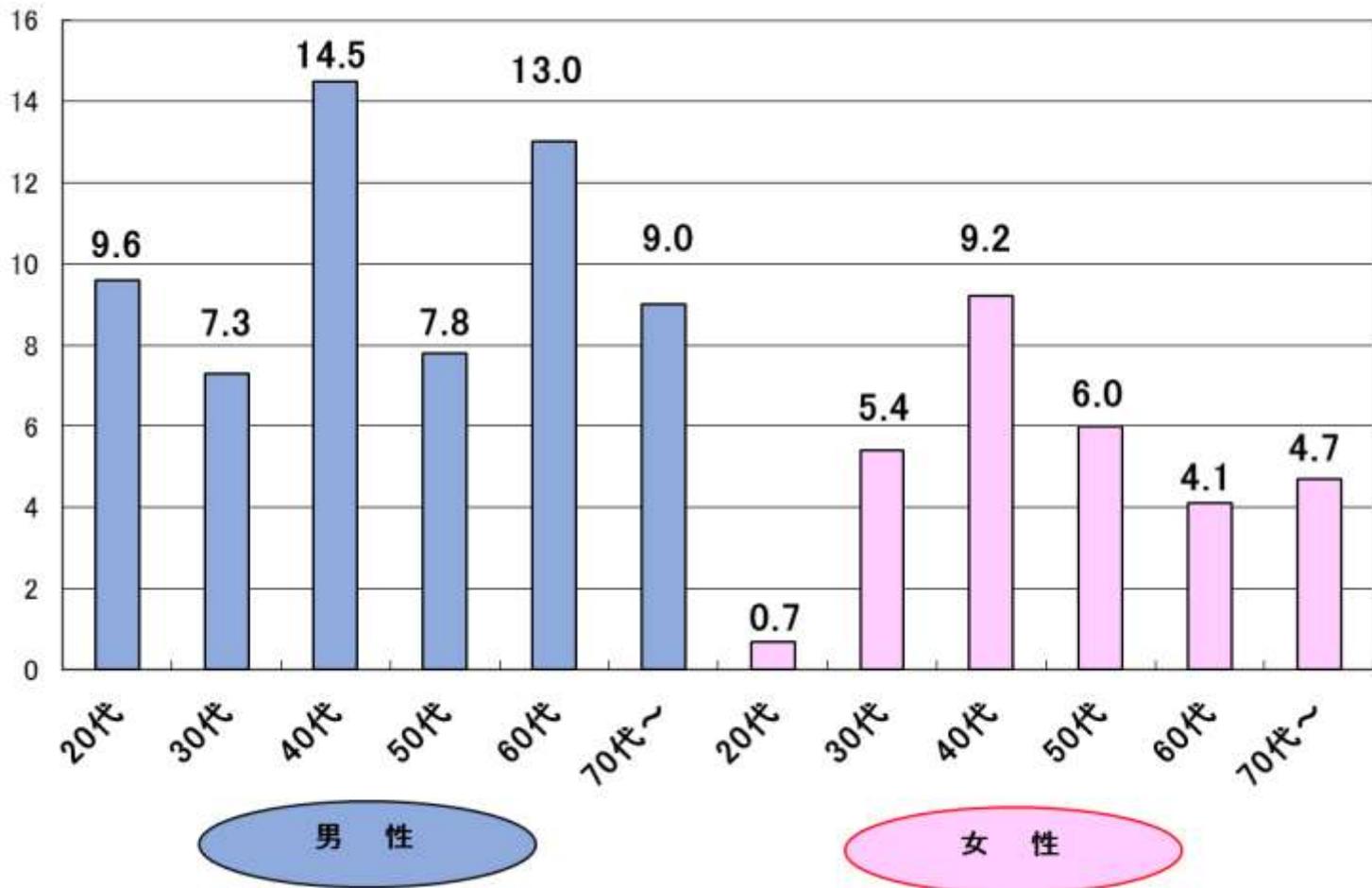


スポーツボランティア実施率(成人)



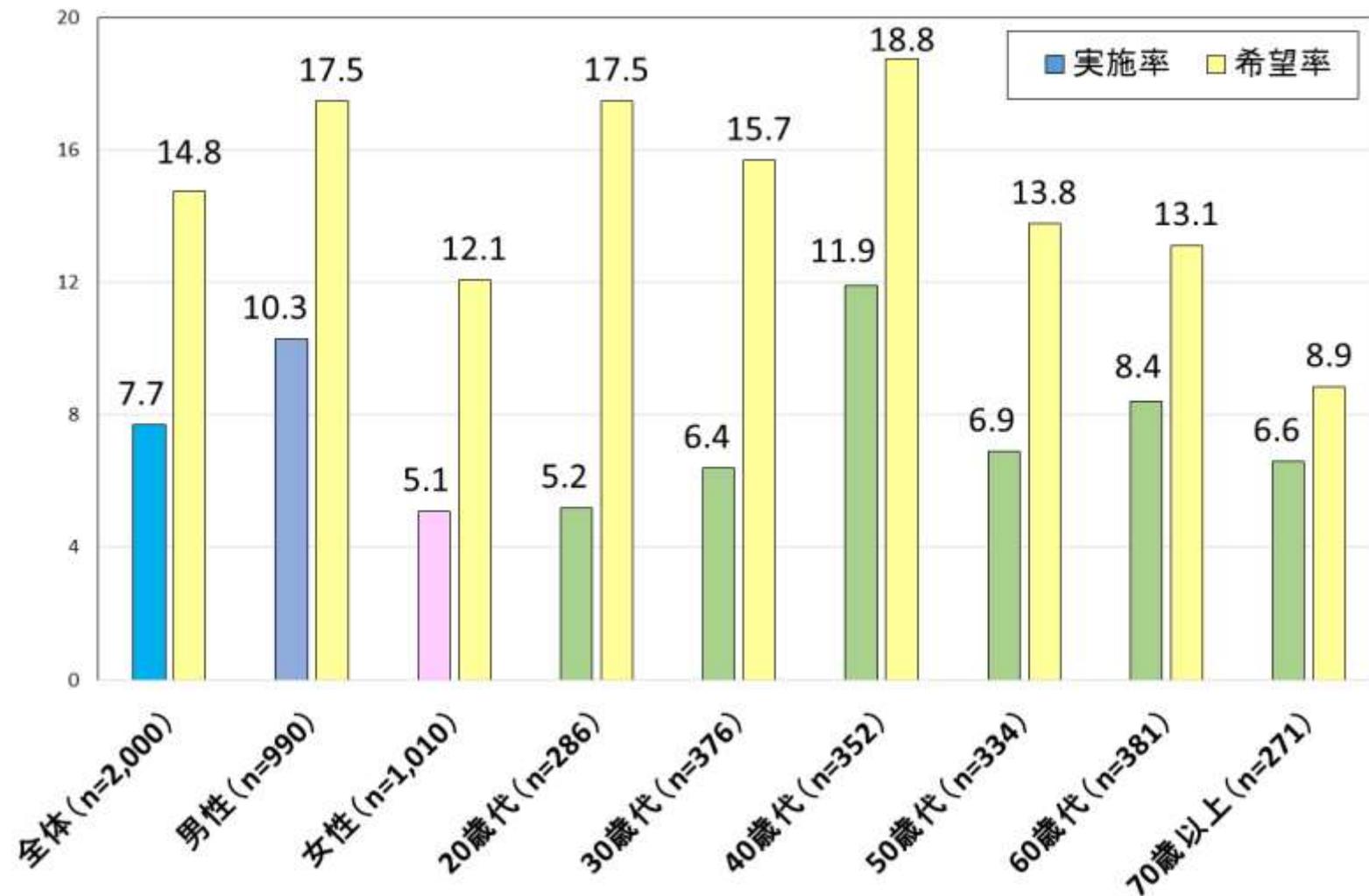
出典:SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

スポーツボランティア実施率(成人)



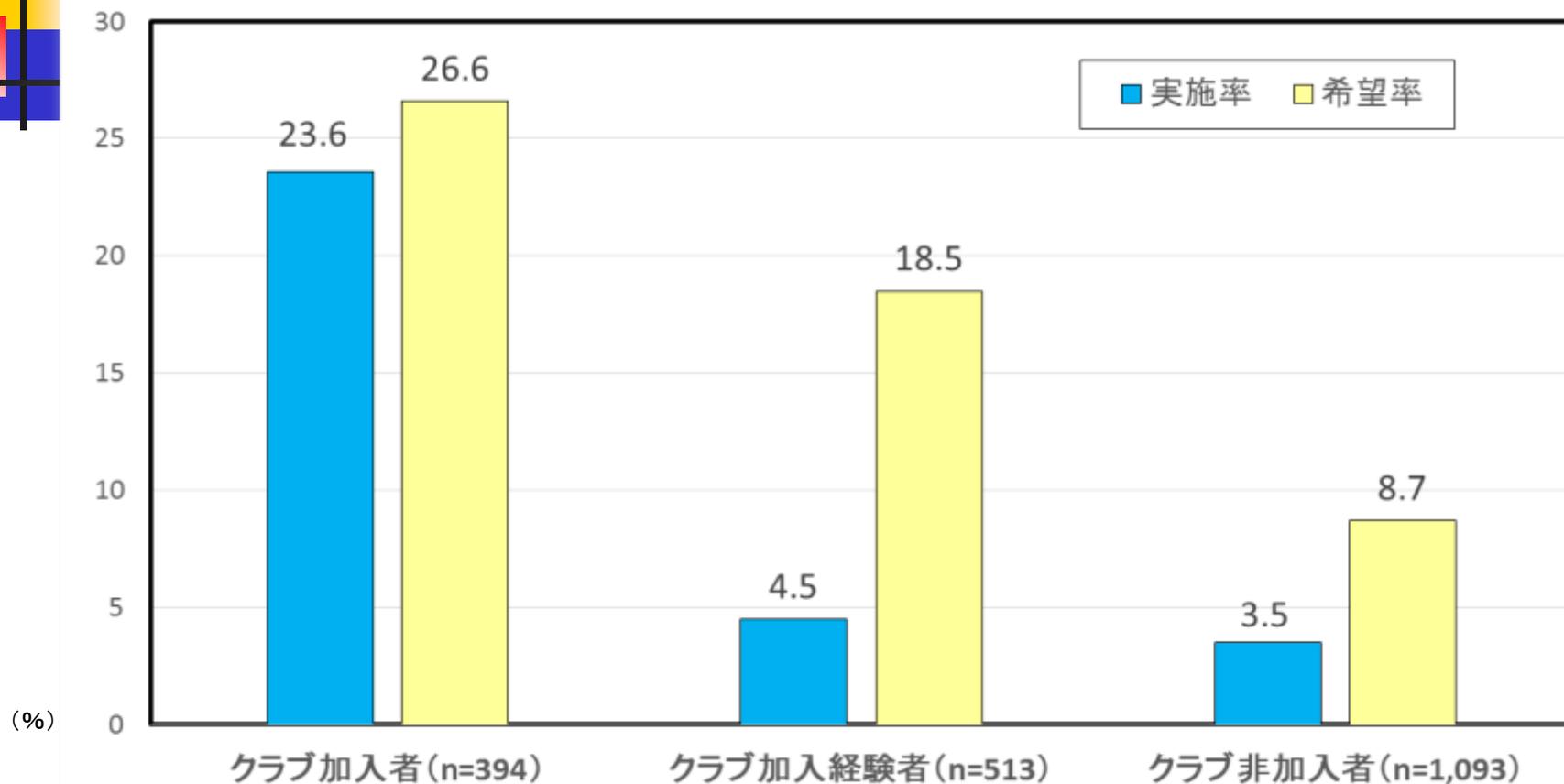
出典:SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

成人のボランティア実施率・希望率



出典: SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

成人のボランティア実施率・希望率



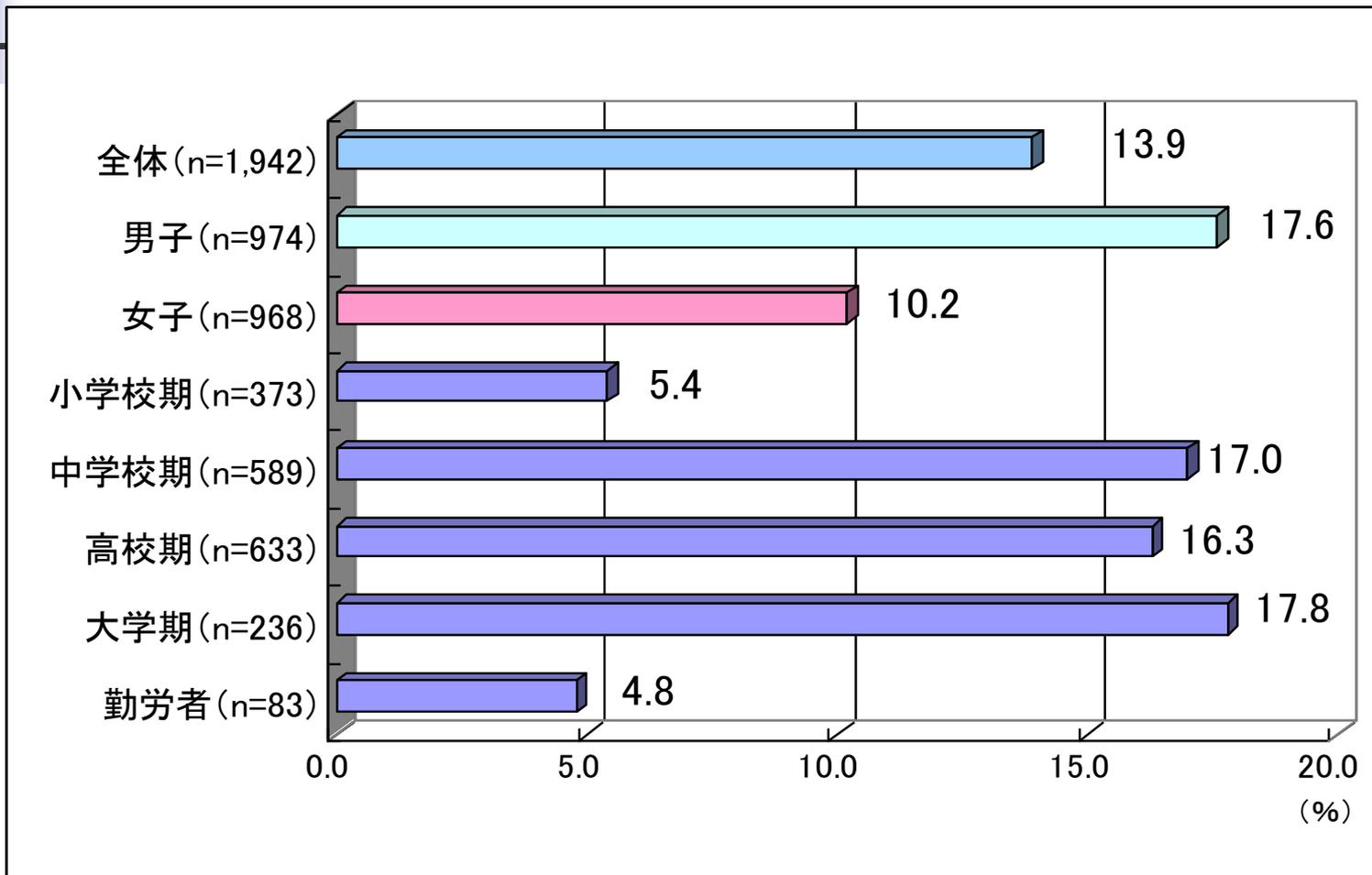
出典: SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

成人のスポーツボランティア 活動内容・希望内容

スポーツボランティア活動の内容		実施率 (%)	実施回数 (回/年)	実施希望率 (%)
日常的な活動	スポーツの指導	41.6	40.3	22.1
	スポーツの審判	29.9	13.2	11.7
	団体・クラブの運営や世話	39.6	23.2	30.7
	スポーツ施設の管理の手伝い	12.3	11.4	19.0
地域の スポーツイベント	スポーツの審判	21.4	6.8	7.2
	大会・イベントの運営や世話	46.1	2.9	57.9
全国・国際的 スポーツイベント	スポーツの審判	3.9	3.2	1.7
	大会・イベントの運営や世話	9.7	1.9	15.5

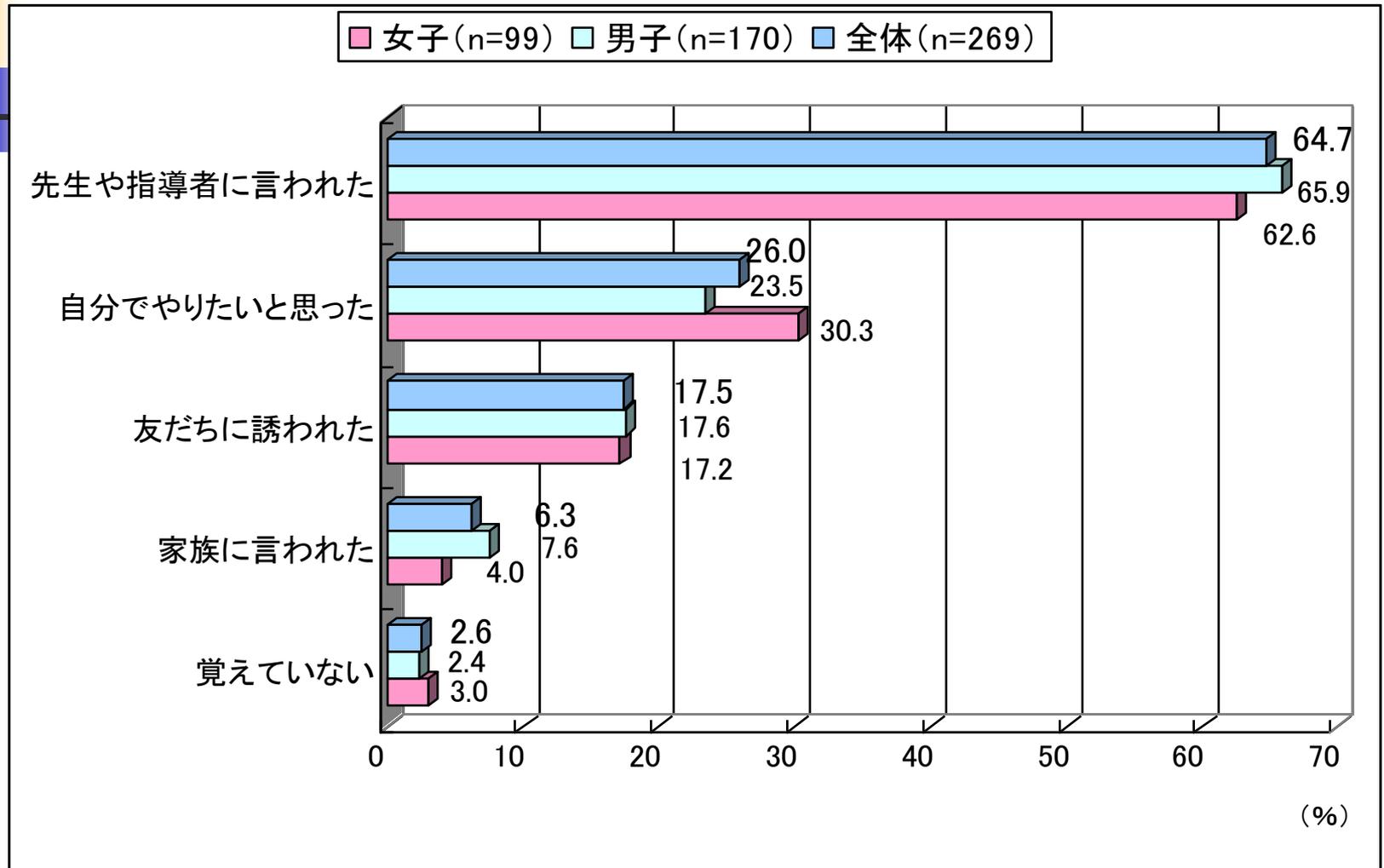
出典：SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

10代のスポーツボランティア実施率



出典:SSF笹川スポーツ財団「10代スポーツライフに関する調査」2012

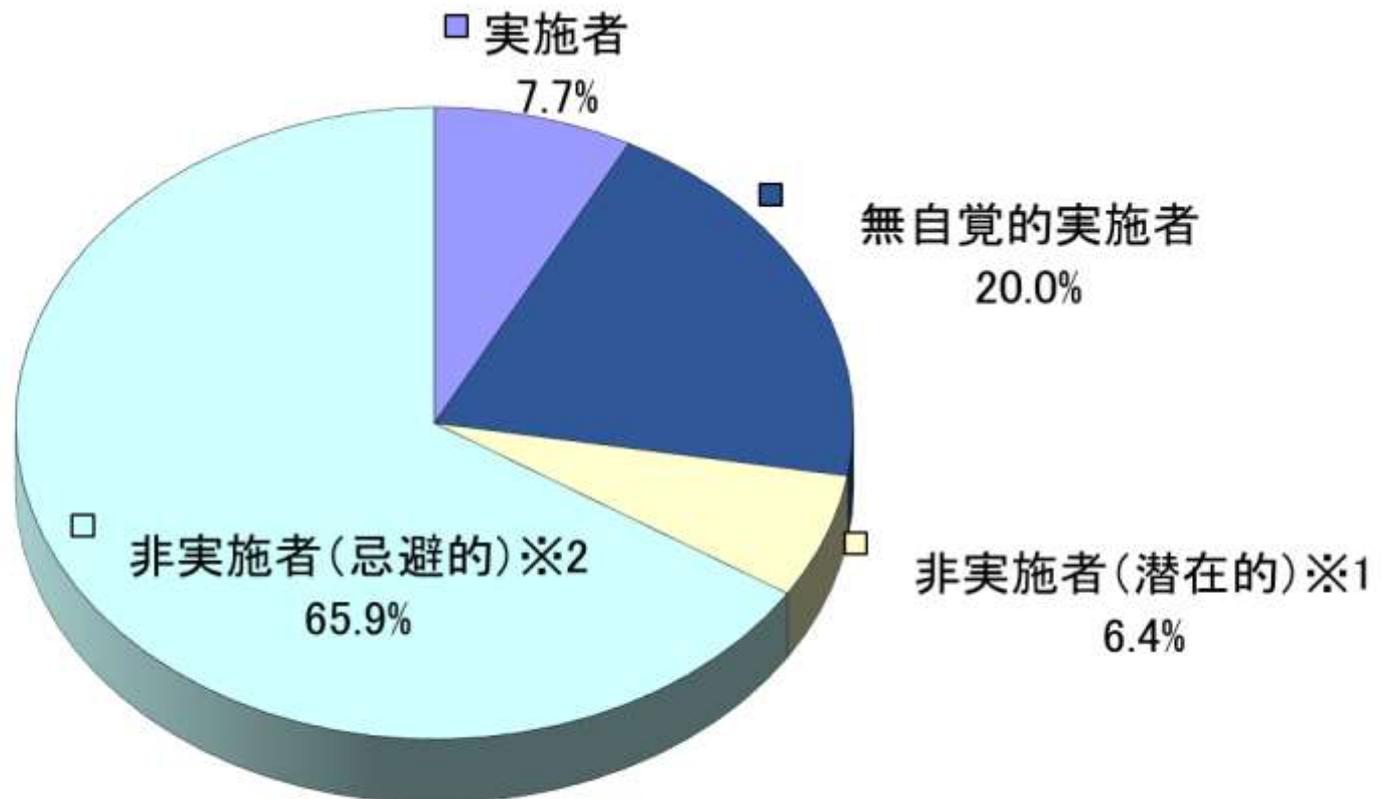
10代のボランティア活動のきっかけ



出典:SSF笹川スポーツ財団「10代スポーツライフに関する調査」2012

スポーツライフ・データ2012

スポーツボランティア 実は3割



※1非実施者「潜在的」とは、今後の実施を希望する非実施者

※2非実施者「忌避(きひ)的」とは、今後の実施も希望しない非実施者



データでみるスポーツボランティア

■ 成人(2012年)

7.7% 男性(10.3%) 女性(5.1%)

実施希望率 **14.8%** 無自覚的实施者 **20.0%**

<希望内容>

1位 「地域のスポーツ大会・イベントの運営や世話」	46.1%
2位 「日常的なスポーツの指導」	41.6%
3位 「日常的な団体・クラブの運営や世話」	39.6%

■ 10代(2012年)

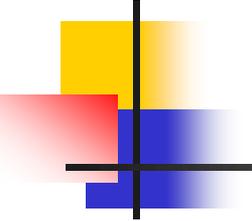
13.9% 男子(17.6%) 女子(10.2%)

実施希望率 **22.1%**



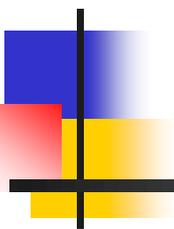
スポーツライフの現状でみると

	成人	10代
■ するスポーツ		
年1回実施	7割	8割
週2回以上	5割	7割
アクティブ・スポーツ人口	20.0%	
■ みるスポーツ		
直接スポーツ観戦	3割	5割
■ ささえるスポーツ		
スポーツボランティア	7.7%	13.9%



スポーツ・ボランティアの現状

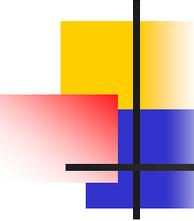
- スポーツの「**する**」「**みる**」活動より低い割合
- 自覚せずにスポーツボランティア活動を実施している成人が**2割**存在する。
- スポーツボランティアに対する**理解・認識**がまだまだ**不足**！



事例：クラブ・ボランティア

【ボランティアの発掘・確保のヒント】

自身のスポーツ暦・趣味・資格を
用紙にご記入ください！



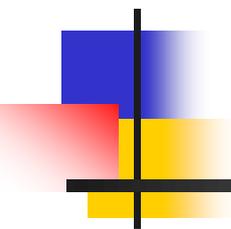
事例：クラブイベントでの運営事例

【ボランティア活動条件(一例)】

- 無償： 謝金・交通費等の支払いは無し
- インセンティブ： Tシャツ、キャップ、弁当
- 保険： 主催者側がボランティア分を負担

陸上ボランティア・海上ボランティア





イベント・ボランティア

ボランティア活動記録映像紹介



ボランティアが支えてくれる イベントにするには・・・

- 事前に役割をきちんと伝える。
(リーダーには事前説明会を開催)
- 当日の活動を想像させ、待ち遠しい雰囲気作り。
- 活動中に声をかけ、困ったことがないか聞く体制を整える。
- 初参加の方には、「表」に出る活動場所に配置。
- 活動後に意見や改善案を聞く。
(当日または後日、労いの場を設ける)



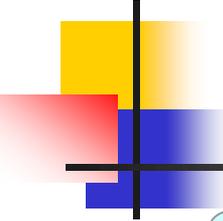
ボランティアが支えてくれると・・・

- イベントのファンとなり、翌年も関わってもらえる。
- 友人・知人などを巻き込んで参加してくれる。
- 昨年の経験を踏まえて自発的に行動してくれる。
- 事前準備から運営に関わってもらえる。



ボランティアを依頼するにあたって

- スポーツボランティアとアルバイトの違い
- 活動内容について
- 感謝の気持ちを忘れずに
- 個人情報取り扱い



ボランティア・リーダーの役割

1. イベントの内容をよく理解する
2. 主催者をサポートする
3. 一般参加のボランティアを取りまとめる
4. 的確な指示や判断を行う ※但しイベントのルールに従う
5. ボランティア一人ひとりの能力が生かせるように導く



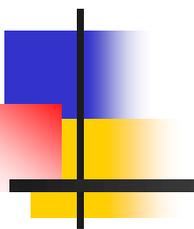
主催者とボランティアのかけはしとなること



「スポーツボランティアの力」 まとめ

- スポーツボランティアは**スポーツ振興**に無くてはならない存在である
- スポーツボランティア活動は**多様**である
- 特別でなく「**趣味・資格・特技**」が生かせる活動
- ボランティア運営には幾つかの**留意点**を守ろう
- スポーツボランティアに対する
正しい理解・認識を広げよう！

『スポーツボランティアの力』



スポーツボランティアを考える・取組む際の

ヒントが1つでもあれば、幸いです。

<ご清聴ありがとうございました>